

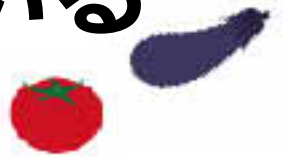
五感を研ぎ澄まし、自然と対峙し、自由に生きている

伊那市吹上の農家、瀧沢郁雄さん。

「自分はどこに向かい、どう暮らしをたてるのか」

現実社会に疑問を持ち始めた20歳の夏休み。通り町デパートの本屋で見つけたソローの「ウォールデン 森の生活」。

生き方を教えてくれた大切な本との、偶然な出会いであった。



ソローのことは
「人間は自然の一部で、それゆえにもっと
簡素に、そして自由に暮らすべきだ」
これだ!と思った。頭の中がすっきり。
そうやって生きていこう。



西箕輪吹上に暮らすきっかけは「山との出会い」という瀧沢さん。「南と中央アルプスに囲まれたこの素晴らしい景観は他にはないから・・・」と吹上の魅力を語ります。寒暖差がある環境は農業に適しているそうで、景観・農業・暮らしが揃った日々の生活を満喫しているようです。優しい笑顔で穏やかな話しぶりとは対照的に、ゴツゴツとした荒々しい手からは農業に対する強いこだわりと姿勢を伺い知ることができます。どんなに忙しくとも、農作業は朝5時から日没まで。余暇は家族との団らんや趣味に。木の香りとぬくもりを感じる手づくり住宅で、奥様と子供の4人暮らし。「伊那図書館は奥さんとの思い出の場所だから・・・」とうれしい話もお聴きすることができました。 記：酒井

思春期に抱いた社会に対するモヤモヤとした嫌悪感。今、外見的には立派なおじさんになったのに、あの頃よりもっとハッキリした輪郭でそれは僕の中にあります。困ったことですね。あちら側にいかないように拳動に注意!「本」は、そんな八方塞がりになりそうな日々の中での羅針盤。

「ヒト」という種類の動物は、どう生きべきなのか。僕たち現代人の脳と体の機能は、おそらく「5000年前のヒト」のそれとそれほど変わっていないのです。スマホをいじるために生まれてきたのではないはずです。思うままにならず、全てがハッピーではないけれど、本当の喜びや豊かさはこちら側にあると信じたい。だからとりあえず、アウトドア!?

記：瀧沢郁雄



1971年茨城県生まれ。信州大学農学部森林科学科卒業。1996年伊那市西箕輪吹上に新規就農。今年で就農20年目。農薬・化学肥料は一切使わず、稲・小麦・大豆・多品種の野菜などを育て、消費者に直接販売している。農場名は「草間舎(クマヤ)」。趣味は登山・釣り・狩猟。

